



# 感染症週報



## 小笠原での流行状況

第18週（4月29日から 5月5日まで）

父島 流行性耳下腺炎の報告がありました。

母島 特別な感染症の報告はありませんでした。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

## 東京都全体での流行状況

### 【主な感染症】

第17週（令和6年4月22日～4月28日）

インフルエンザ	(減少)
COVID-19	(減少)
咽頭結膜熱	(→)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(増加)
感染性胃腸炎	(増加)
水痘	(増加)
手足口病	(→)
伝染性紅斑	(→)
突発性発しん	(→)
ヘルパンギーナ	(→)
百日咳	(増加)
風しん	—
流行性耳下腺炎	(→)
RSウイルス	(減少)
流行性角結膜炎	(→)
無菌性髄膜炎	—
マイコプラズマ肺炎	(→)
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	—

※ 赤字の感染症は警報または注意報レベルは報告なし、(→)は大きな変動がないことを表します。

## 劇症型溶血性レンサ球菌感染症



初期症状は、咽頭痛、発熱、消化管症状（食欲不振、吐き気、おう吐、下痢）、全身倦怠感、低血圧などの敗血症症状、筋痛などが見られます。

発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、発病後数時間で筋肉周辺組織が壊死し始め、**短時間で血圧低下や多臓器不全からショック状態となり死亡してしまうことがあります。**

四肢の疼痛、腫脹、発熱などの感染の兆候が見られる場合は、速やかに医療機関を受診してください。

今年4月「東京都感染症マニュアル2018」の「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」の内容が更新されました。



参考文献：東京都感染症情報センター

## 感染症メモ

- インフルエンザの定点当たり報告数は、0.72で前週より減少しています。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、1.84で先週より減少していますが、今後の動向に注意が必要です。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、4.09で増加傾向です。
- 今週は劇症型レンサ球菌感染症の話です。昨年に引き続き、報告数が増加しています。劇症型レンサ球菌感染症は、発症した場合、適切な治療が行われた上でも致命的な転帰を辿る場合が多い病気です。飛沫感染や接触感染によって感染することから、手洗いや咳エチケット等の日常の標準予防策、**原因となる溶血性レンサ球菌に感染しないことが拡大防止のために重要**です。